Laboratory for Exercise and Environmental Physiology

運動と環境生理学研究室

教育学部

http://nocchi917.wixsite.com/mysite

人文社会科学系　准教授
天野　達郎　Tatsuro Amano

専門分野	温熱生理学、運動生理学

医療・健康・福祉

ヒト運動時の体温・呼吸・循環調節反応に関する研究

キーワード	体温調節、汗腺、皮膚血流、熱中症、スポーツ

研究の目的、概要、期待される効果

夏の暑い環境下で運動を行うと体温が過度に上昇し、運動パフォーマンス低下や熱中症の危険が高まります。熱中症を予防するには発汗や皮膚血管拡張といった熱放散機能をよく理解し、高めることが重要です。私達の研究室では，発汗を中心に、体温・循環・呼吸調節反応から統合的にヒトの生体調節機構について研究しています。

具体的に測定する生体反応は様々です、例えば、深部体温、皮膚温、局所発汗量、活動汗腺数、単一汗腺の発汗量、汗の塩分濃度・汗腺のイオン再吸収能力、皮膚血流量、前腕血流量、酸素摂取量、感覚指標（主観的運動強度、温熱感、快適感、気分評価）、心拍数、血圧などがあります（まだあります）。必要に応じて、医師や看護師と協力しながら採血も行います。発汗に関する研究は侵襲的・非侵襲的な方法を駆使して行っており、どのような神経伝達物質や受容体が関与しているのかなど、人を対象にした研究では比較的新しい知見を見出しています。

発汗のみならず、人の生体反応を客観的に調べることで新たな製品開発や健康の維持増進など、多岐にわたる貢献が期待できる研究分野です。

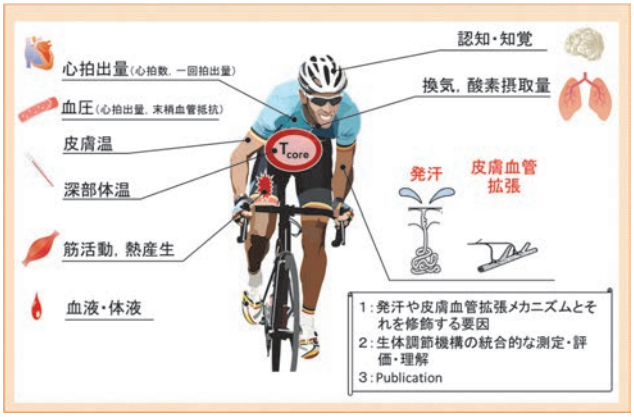
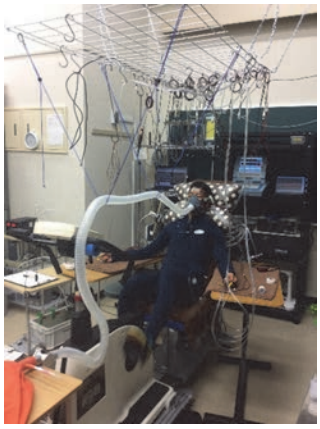


図1：運動時の生体調節の概要．運動時・身体活動時には様々な調節系が身体行動に貢献するため，統合的な視点から評価することが欠かせません．



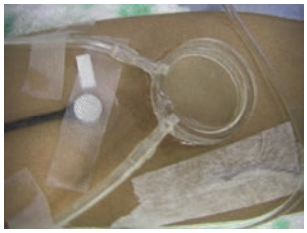


図2：サーマルスーツを着た実験の様子（左）や発汗・皮膚血流測定（右）．H30年度内に人工気象室（温度と湿度を調節できる実験室）が導入される予定です．

関連する知的財産論文　等	Amano T　et al., Cutaneous adrenergic nerve blockade attenuates sweating during incremental exercise in habitually trained men. J Appl Physiol, 2018. など

アピールポイント

発汗に関する研究では、ヒト生体内の詳細なメカニズムを検討することができます。

汗以外にも自律神経反応など統合的にヒトの体について研究するノウハウがあります。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・皮膚科学、衣服、食品、産業労働、運動・スポーツ、熱中症予防、健康の維持増進といった分野でのつながりを期待しています。

応用健康科学研究室

教育学部　工学部　人間支援感性科学プログラム

http://murayama-lab.com/

人文社会科学系　准教授

村山　敏夫　Toshio Murayama

専門分野	応用健康科学、測定評価、発育発達、加齢科学、健康生理学、地域デザイン

人文社会科学

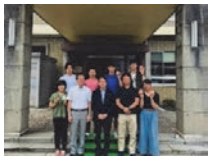
生活の新しいスタイルを提案する健康社会デザイン
～　ライフイノベーション構想　～

キーワード	健康社会デザイン、運動機能評価、フィールド科学教育、ライフイノベーション

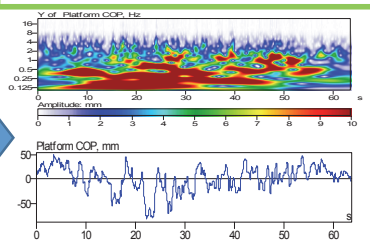
研究の目的、概要、期待される効果

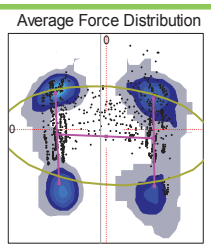
我々の研究室では、健康な社会を築くための仕組み構築を研究の柱として、運動の解析や社会調査を行っています。運動解析班は筋電図、フォースプレート、ビデオ画像解析、脳波計などを用いて運動における様々な事象を捉えながら解析を行っています。社会調査班は、県や市など行政からの受託研究や民間企業・団体からの依頼に基づく調査を行っており、阿賀町での地域資源を活用したまちづくりや小千谷市のスポーツによる地域活性化などのプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。柏崎市や新発田市ではスポーツによるまちづくりに取り組み、出雲崎町では高齢者の健康増進と交通事故抑止のプロジェクトに取り組んでいます。さらには交通事故抑止には新潟県警との合同プロジェクトが進んでいます。

これら研究は全て健康的な社会基盤の整備と仕組み構築に向かいます。研究室を卒業した院生らは教育現場・病院・企業など幅広い分野で活躍しており、研究を通じて実社会に向けた教育を行っています。



様々な地域や分野とつながる健康社会デザイン





関連する知的財産論文　等	姿勢制御における立位位置知覚と足底圧情報の機能的役割について(村山敏夫：日本体育学会第69回大会．2018) 足圧分布と重心移動軌跡に着目した漸増課題遂行運動の歩容解析(村山敏夫：日本体育学会第68回大会．2017) 地域の予防医療展開を目指したリレーションシップデザインの構築，村山敏夫，地域デザイン学会誌、No.4, p135-154，2014.

アピールポイント

運動機能の測定と評価および体力関連調査。
地域資源を活用した地域デザインの開発と提案。
生活の新しいスタイルを提案。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

- 健康をキーワードにしたまちづくりに関心がある自治体
- 新しい生活スタイルの開発に関心のある企業

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

教育学部

長澤研究室

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/

人文社会科学系　教授
長澤　正樹　Masaki Nagasawa

専門分野	特別支援教育、発達障害、障害者支援、教育問題、指導法

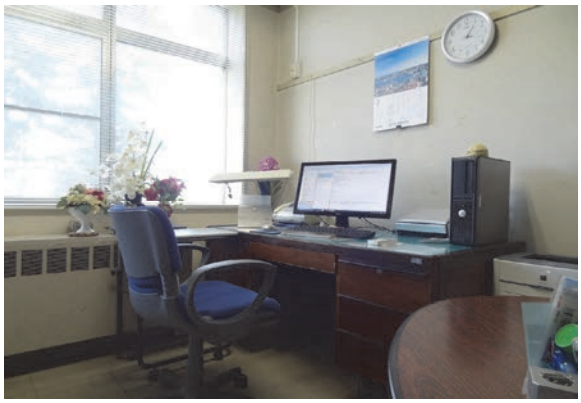
人文社会科学

多様性へ対応できる学校と社会をめざして
～特別支援教育、障害者支援～

キーワード	学習のユニバーサルデザイン、生徒指導、早期療育、合理的配慮、認知特性

研究の目的、概要、期待される効果

(1)学習のユニバーサルデザイン
障害のある子どもも含め、どの子も学びやすい学習条件や指導法について研究しています。
(2)子どもの悩みに応える対応
障害という視点ではなく、子どもの悩みに焦点化し、子どもと子どもを取り巻く人々のQOLを大切にした対応を検証していきます。
(3)発達障害幼児への支援
発達障害特性のある幼児に対し早期療育の在り方を考えていきます。
(4) Twice Exceptional(2E) Childrenへの対応
高い能力と相反する能力を有し、特別な支援を要する子どもの実態把握と支援について研究します。



長澤研究室

学生支援のための特別修学サポートルーム(新潟大学)

関連する知的財産論文　等	長澤研究室のHPで公開しております http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/nagasawahomepage2(2008).html

アピールポイント

幼児から成人まで、障害など支援を要する人たちへの教育や支援を考えます。
いじめや不登校、虐待、非行などの教育問題へも取り組んでいます。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・障害者雇用・支援や合理的配慮などアドバイスできるかもしれません。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

笠巻研究室

教育学部
WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
笠巻　純一　KASAMAKI Junichi

専門分野	健康行動科学、衛生学・公衆衛生学、健康教育学

医療・健康・福祉

健康行動の解析による生活習慣病予防のための健康支援策についての研究

キーワード	食生活、運動、飲酒・喫煙、睡眠、健康診断・栄養調査結果

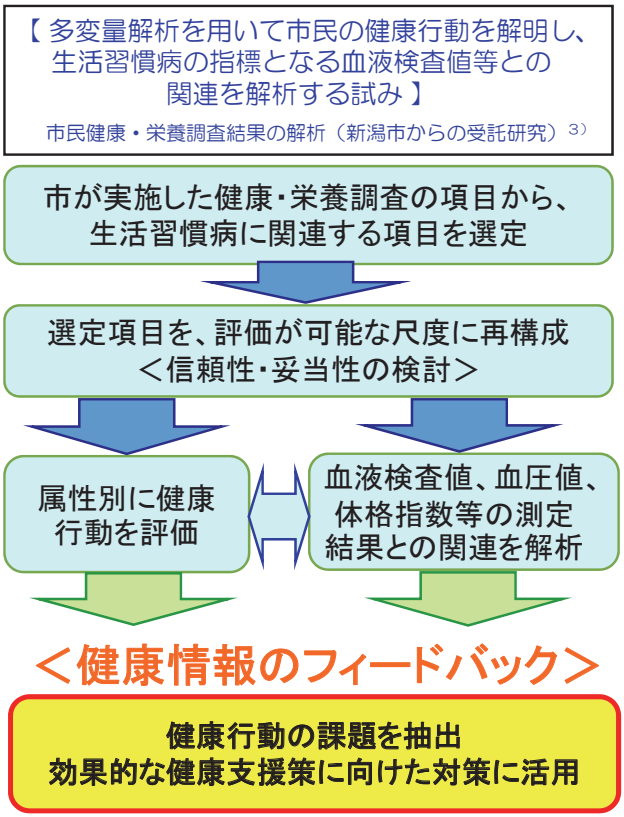
研究の目的、概要、期待される効果

生活習慣病への罹患は、健康寿命や幸福感の低下に影響しうる要因です。循環器疾患やがん等をはじめとする生活習慣病への罹患は、一人ひとりの生活の質に影響するだけでなく、国民医療費の増加に伴い国家財政をも圧迫しています。

生活習慣病予防を図るためには、すべての年齢層に対する健康支援策の充実が必要です。保健・医療の専門家のみならず、学校、行政、企業等が、それぞれの機能を生かした支援を行うことが大切です。

当研究室では、健康行動を解析し、生活習慣病を予防するための支援策に有用な健康情報を解析・提示しています。“健康行動”と一口に言っても食、運動、飲酒、喫煙、睡眠等などが複雑に絡み合って、生活習慣病のリスクファクターを形成しています。そこで、多変量解析と言われる統計的手法を用いて、複雑多岐にわたる健康行動を解析し、生活習慣病の要因にアプローチします。

信頼性の高い統計解析結果に基づき、疾病に影響する健康行動を評価することは、科学的根拠に基づく効果的・効率的な健康支援策の検討を可能とします。



関連する知的財産論文　等	1）学生の栄養摂取状況に関連する要因の解明，笠巻純一 他，日本衛生学雑誌，Vol.73，pp.395-412，2018 2）第2章 保健衛生統計，第3章 疫学・疾病予防学 他，「養護教諭のための公衆衛生学」，笠巻純一著，河田史宝，内山有子編，東山書房，2018 3）Development and Application of an Evaluation Standard for Health Behavior. Junichi Kasamaki, NUSS18，2017

アピールポイント

健康行動の特徴に応じた生活習慣病のリスクファクターについて、信頼性、妥当性、有用性の高いデータ・健康情報を還元します。

健康行動の改善に向けた健康支援策に関する学術コンサルティング等のご相談に応じます。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・健康診断や健康・栄養・生活習慣調査の結果を、対象となる集団の健康支援策に活用したいと考えている地方自治体など。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

田中研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
田中　誠二　TANAKA Seiji

専門分野	公衆衛生学、医学史（公衆衛生史）、ヘルスプロモーション

医療・健康・福祉

私たちの健康はいかにつくられ守られてきたのか？
～　わが国の歴史的経験に学ぶ公衆衛生と住民参加　～

キーワード	公衆衛生活動、地域保健、衛生教育（健康教育）、住民参加、コミュニティヘルス

研究の目的、概要、期待される効果

戦後70年、わが国の健康水準は飛躍的に改善・向上しました。医療技術の進歩や保健医療サービスの充実がこれに大きく寄与していますが、一方で、人びとによる多様な健康実践がその礎となっていることもまた確かです。当研究室では、公衆衛生に関するわが国の歴史的経験を掘り起こし、検証することで、現代のヘルスプロモーション活動や健康教育に応用可能な知見を蓄積・整理する作業に継続的に取り組んでいます。

例えば，現在取り組んでいる研究課題の１つに「蚊とはえのいない生活実践運動」と呼ばれた住民主体の地域保健活動があります。1950年前後に農村部で生まれ、その後、全国各地に広がったこの活動は、当時全国的に流行していた「赤痢」の減少に大きな成果を挙げたと評価されています。また「蚊とはえ」対策に留まらず、人びとが直面する健康課題（例えば栄養改善や結核予防など）を次々にテーマとして取り上げ、多様な保健活動へと発展していった点が特徴といえます。

健康問題の解決に向けた「住民の主体形成」と組織活動はいかにして成立するのでしょうか？戦後日本で活発化したこうした地域保健活動に着目し、様ざまな史資料を紐解くことで、現代における公衆衛生活動への応用可能性を検討しています。

研究で使用する様ざまな史資料

厚生省（1947）

彦根市の風土病マラリア撲滅運動（1951）

群馬県粕川村の“ひのえうま”対策（1965）
［アサヒグラフ，1965/12/10号，P.14より］

公衆衛生に関する日本の経験を掘り起こし，記録する

関連する知的財産論文　等	田中誠二（2020）「コミュニティ活動（地域活動）」丸井英二編『わかる公衆衛生学・たのしい公衆衛生学』弘文堂 田中誠二他（2018）「群馬県粕川村における迷信『ひのえうま』追放運動」（学会発表：第83回日本健康学会総会〈群馬〉） 田中誠二他（2009）「風土病マラリアはいかに撲滅されたか：第二次大戦後の滋賀県彦根市」日本医史学雑誌 55(1), 15-30

アピールポイント

様ざまな方法で健康改善に取り組んできた先人たちの「知恵や工夫」を丁寧に記録・分析することで私たちの健康を考える“新たな視点”を提示できるよう努めています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・地域の健康課題に取り組む（検討している）自治体や住民グループの皆様との協働を期待します。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

体操方法論研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　講師
檜皮　貴子　HIWA Takako

専門分野	体操、体つくり運動、体育科教育学、転倒予防運動、コーチング学

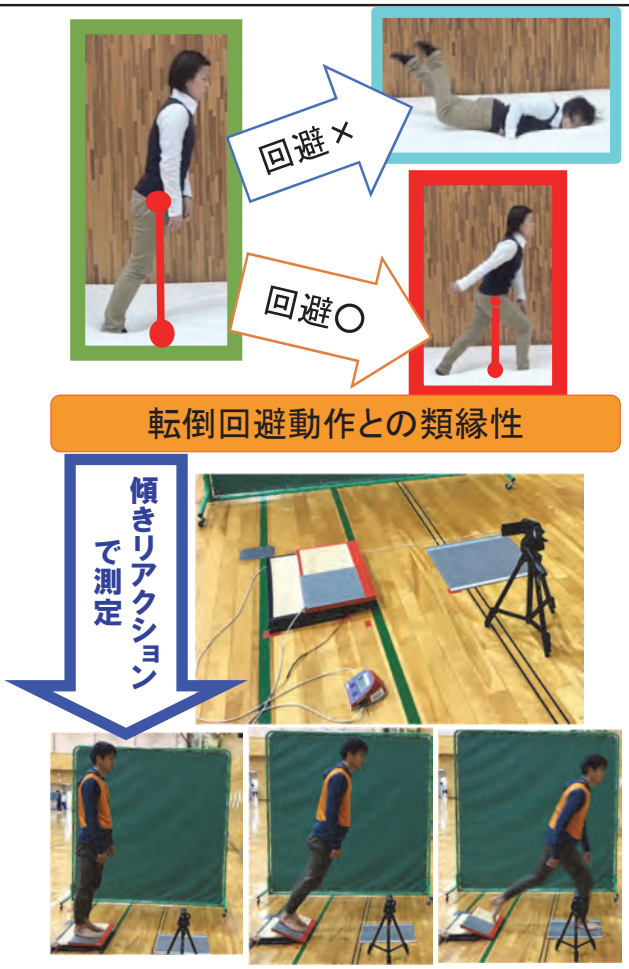
医療・健康・福祉

とっさの一歩を引き出す装置「傾きリアクション」の開発
～　ステッピングストラテジーに着目して　～

キーワード	転倒回避動作との類縁性、身体重心、反応時間、踏み出し速度、踏み出し距離

研究の目的、概要、期待される効果

転倒回避動作の一つであるステップピングストラテジーに着目し、その動作を安全に誘発させる装置「傾きリアクション」を開発しました。動作の手順は、次の通りです。１．.対象者は自然な立位姿勢で水平な板上に乗ります。２．.立位姿勢を保持したまま前方に加重します。３．.足元の板が前傾し，対象者は転倒を回避する一歩を踏み出します。さらに、板上と傾いた板が接地する床面、対象者が足を踏み出す場所にマット型スイッチを設置し，板が傾いた後に足が離れるまでの時間と板から足が離れて踏み出し足を着地させるまでの時間を測定できるようにしました。さらにFR測定器を改良し、足の踏み出し距離も測定できるようにしました。大学生105名を対象に、「傾きリアクション」測定と体力・運動能力調査8項目の測定を実施した結果、握力および上体起こし、50m走、シャトルラン、ハンドボール投げの5項目と踏み出し速度との間に弱い相関が認められました。すなわち，「傾きリアクション」において足を素早く動かす能力と全身筋力や身体を移動させる能力との間に関連があると考えられます。 今後、転倒と関連性の高い測定項目との相関を明らかにすることで、転倒予防効果を示すための尺度として、その発展が期待されます。



関連する知的財産論文　等	檜皮貴子ほか(2013)バランスボードを用いた女性高齢者向け転倒予防体操の考案，体育学研究，第58号第2巻　pp.707-720など

アピールポイント

転倒のリスクを測定する項目は、転倒回避動作との類遠性が高くないものが多いです。実際に身体重心を支持基底面から外して踏み出しを行う本測定は新しい着眼点を有しています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・健康器具の開発や転倒予防や健康に関わる事業をされている企業
・子どもや高齢者の転倒予防について取り組みを促進している自治体

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

被服学研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
中村　和吉　NAKAMURA Kazuyoshi

専門分野	表面・界面科学、繊維・高分子材料、コロイド科学

ナノテクノロジー・材料

物質の表面・界面では何が起きているのか？
～　モノの変化をミクロに見きわめる　～

キーワード	両親媒性分子集合体、コロイド・界面科学、ソフトマテリアルズ、ナノサイズの繊維・粒子

研究の目的、概要、期待される効果

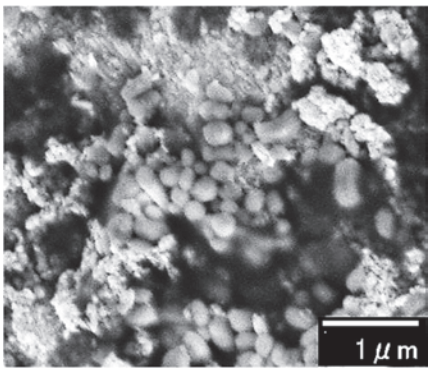
ナノメートルからマイクロメートルサイズの粒子が媒体中に分散している状態をコロイドといいます。霧や黄砂などの気象現象や、食品、医薬品、工業製品などコロイドは私たちの身の回りに多く存在して、私たちの暮らしを豊かにしています。

私たちは「分散媒である原子や分子より**少し大きい粒子**」としてコロイドを考え、溶液化学の延長としてのコロイドについて研究を行っています。そして物質変化の過程をミクロな視点で明らかにすることを目指しています。

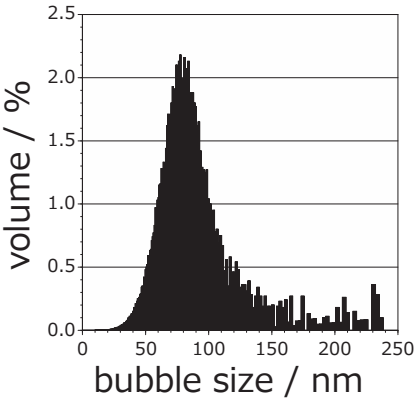
研究例として酸素ナノバブルの形成について述べます。二酸化マンガンを触媒とし、過酸化水素水を分解して酸素を発生させる反応は、小学校理科で学びますが、二酸化マンガン表面にテフロンのナノ粒子を付けておくと、発生する酸素ガスの大きさがナノサイズまで小さくなります（右図）。

本研究で形成した酸素ナノバブルは、通常の発生期酸素よりも高い反応性を持ち、色素（メチレンブルー）の分解反応では通常の３倍もの反応性がありました。

一般にナノサイズの気泡を作るには大がかりな微細化設備（機械力・電力）が必要になりますが、本研究では、テフロンナノ粒子を追加するだけで簡易に形成する方法を開発しました。



二酸化マンガン表面上に付着したテフロンナノ粒子



酸素ナノバブルの粒径分布

関連する知的財産論文　等	液晶組成物および化粧料（2000-256132） 界面活性剤型柔軟仕上げ剤の機能発現の観察（「界面活性剤の選び方、使い方事例集」技術情報協会(2019)） ソフトキャンディーと炭酸飲料共存下における急速発泡現象の解明（新大教育学部紀要8巻２号(2015)）

アピールポイント

ナノ素材に限らず、界面科学的な視点で観察できる現象であれば、分野や対象を問わず何にでも興味を持って取り組みます。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・分野にはこだわりません

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

金属加工研究室

教育学部

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~hirao/

人文社会科学系　准教授
平尾　篤利　HIRAO Atsutoshi

専門分野	生産工学、加工学、放電加工、微細加工、砥粒加工

製造技術

高アスペクト比微小径軸の成形法および微小径深穴加工への展開

キーワード	微小径軸、高アスペクト比、微細加工、深穴加工、放電加工，微小径工具

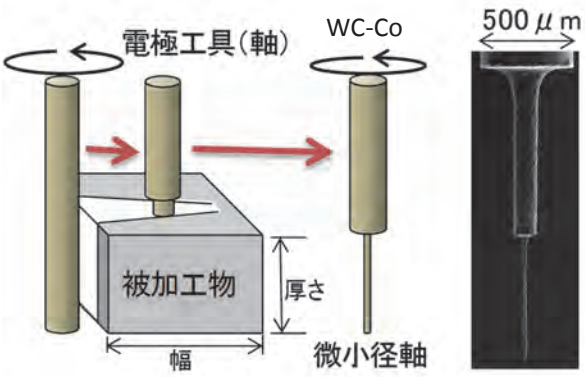
研究の目的、概要、期待される効果

微小径穴加工技術には、微小径ドリル工具を用いたドリル加工法、超短パルスを用いたレーザ加工法、放電加工法が挙げられます。加工効率の点からドリル加工法が広く利用されているものの、直径0.1mm以下の微小径穴や高アスペクト比（L/D10以上）の微小径深穴加工において、放電加工法が適用されています。

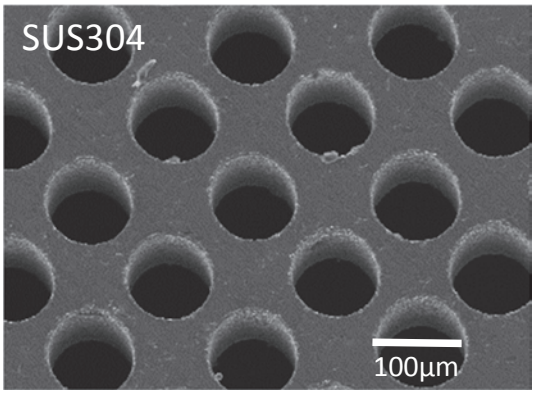
放電加工法を用いた微小径の穴加工では、穴径に対応した微小径の電極工具が必要となり、この電極の微細化が重要となります。特に、直径5μm以下の軸を成形するには、実用化されている加工機でも困難を極めています。

本研究は、電極軸を回転させながら成形プレート側へ走査放電加工する微細軸成形法を提案しています（右上図参照）。本手法は、軸成形が容易であり、放電面積が広いため効率のよい加工を実現しています。

これまで、直径10μm以下，L/D25以上の微小径の軸成形を実現しています。さらに、成形軸を用いた微小径穴加工へ展開しています（右下図参照）。現在、微小径の複雑形状加工への展開を行っています。



放電加工を用いた微小径軸成形法



微小径穴加工（成形軸を用いた同一機上での加工）

関連する知的財産論文　等	走査放電軸成形法における軸直径と消耗比（電気加工学会誌） Study of Deposition Machining Using Electrical Discharge with Reciprocation Rotation in Air Gap（International Journal of Electrical Machining）

アピールポイント

様々な金属材料に対し、高精度に微小径軸を成形することができます。

材料表面への表面改質もできるため、成形軸表面や加工穴内の表面改質が可能です。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

- 微小径軸を必要とする企業、自治体
- 微小径の穴を必要とする企業、自治体
  - 製造業（精密加工、工具、金型など）
  - 医療分野などでの利用を期待しています。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

丹治研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　教授
丹治　嘉彦　TANJI Yoshihiko

専門分野	現代美術

地域課題

アートプロジェクトの実践による地域貢献

キーワード	協働、表現、美術教育

研究の目的、概要、期待される効果

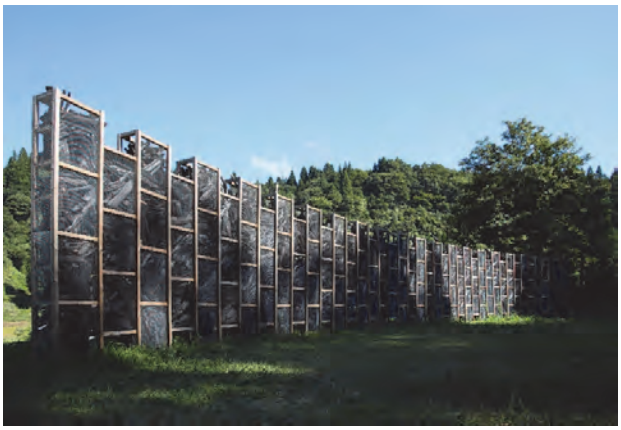
今までアートを語るときに一般的に捉えていた額縁に収まった絵画や台座にのった彫刻を思い浮かべるでしょう。また技能的な効果を狙ったものを物差しとして芸術を論ずることもあるでしょう。

しかし、現代社会におけるアートのポジションは、他者と関わることにその意味を見出すことが、新たなその概念の核となっています。

例えば、社会に潜む問題を市民とともに考え、それをアートにおける表現を実践することで地域コミュニティーの活性化に繋がり、またそれによって人と人とが有機的に繋がることがその使命となっています。

アートプロジェクトとは例えば大学が地域が抱える問題を一緒に考え、そしてともに表現することで、新たな環境を生み出すことがその意味になります。

かえっこプロジェクト　西区 DEアート　2007



再生・海そして川から vol.2

関連する知的財産論文　等	大地の芸術祭、瀬戸内国際芸術祭等の参加　水と土の芸術祭 ディレクター 『うちのDEアート 15年の軌跡（地域アートプロジェクトを通じて見えてきたもの）』新潟大学教育学部芸術環境講座(美術)編、新潟日報事業社、2017）

アピールポイント

うちの DEアートや新潟市内におけるアートプロジェクトの実践を多数手掛けてきました。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・大学と協働しながら社会的な問題をアートによって解決を考えている自治体や市民団体。

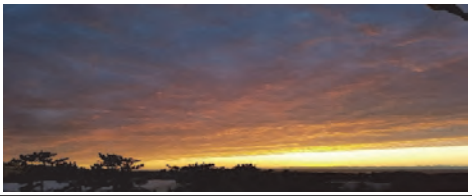
※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

行動変容論研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　教授
神村　栄一　KAMIMURA Eiichi



専門分野：臨床心理学、教育相談、カウンセリング、認知行動療法、臨床行動分析、ストレスコーピング

人文社会科学

子どもと成人の健康回復維持につながる行動変容
～　認知行動療法を応用して　～

キーワード：不安症、強迫症、衝動制御困難、行動嗜癖、不登校、ひきこもり、集団不適応、習癖

研究の目的、概要、期待される効果

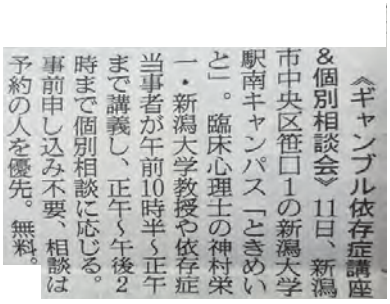
「こころの健康」に関するリテラシーを、ライフステージに応じて正しく身につけてもらうことは、本人と家族の生活の質を大きく左右します。

例えば不登校や若者のひきこもり、青年期以降のこころのトラブルについては、それなりのリスク要因があるようです。それらを適切にアセスメントし、生じ得る不調について知識を持ち予防にに心がけること、万一、不調となった場合には、効果的な改善回復につながる適切なサービスを主体的に受けることが求められます。

こころの健康にかかわるさまざまな苦痛や困難を行動科学をベースとして分析した上で長期的なメリットをもたらす介入を提供するための技術が認知行動療法であり、応用行動分析です。

不安症や強迫症、衝動制御の問題は、「回避したいという強い衝動のため、こだわりをひきずってしまう」こころのトラブルであるという点で共通しています。過剰に脅威と認知してしまうこと、課題解決の効率を低下させるような確認や儀式的行為の繰り返し、睡眠を中心とした生活リズムの障害、そしてギャンブル、ゲームやネットへの嗜癖などは、行動科学の原理に基づいて変容させることができます。そのような技法の精度の向上にむけて、実践研究を展開しています。

教職大学院院生と新潟県内教員、相談員の合同事例検討



《ギャンブル依存症講座&個別相談会》11日、新潟市中央区笹口1の新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」。臨床心理士の神村栄一・新潟大学教授や依存症当事者が午前10時半～正午まで講義し、正午～午後2時まで個別相談に応じる。事前申し込み不要、相談は予約の人を優先。無料。

左）不登校ひきこもりについて著書、右）ギャンブル障害について

関連する著書：
『不登校・ひきこもりのための行動活性化』（単著、金剛出版、2019）
『学校でフル活用する認知行動療法』（単著、遠見書房、2015）
『中1ギャップ：新潟から広まった教育の実践；ブックレット新潟大学65』（共著、新潟日報事業社、2015）

アピールポイント

行動科学（実証的心理学）の技術に基づいてこころのトラブルを評価、変容する方策の、応用ないし開発が期待されている領域において、お役に立てることがあるかもしれません。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・医療や保健、福祉や教育の領域が中心ですが、子どもから大人の、なかなか変わりにくい生活習慣がかかわる問題に科学的に取り組もうとお考えのすべての方々、および分野に。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

教育学部

WEBサイト⇒

教育行政学研究室

人文社会科学系　准教授
雲尾　周　KUMOO　Shu

専門分野	教育行政学、学校経営、教育制度、生涯学習・社会教育、防災

人文社会科学

学校づくり・人づくり・地域づくり
～　地域教育経営による人材育成とつながりの創生　～

キーワード	学校教育、生涯学習、家庭教育、社会教育、地域づくり、地方創生

研究の目的、概要、期待される効果

教育行政学は、教育の条件整備に関する学問です。教育条件とは、学校環境整備にとどまらず、どのように教員養成を行い採用し研修するか、何をどのように教えるか、どのような専門性を持つ教職員を配置するか、などあらゆることが含まれます。そしてそれは、学校教育にとどまらず、家庭教育支援、社会教育、生涯学習にも及ぶものです。

地域教育経営は、中学校区程度を基本単位とし、（多くは）学校を核にしながら、地域の教育資源を結び付けるもので、教育行政の学校区における実現行動といえます。そのような学校をつくることで、そこに関わる人たちが自分の学びを活動に結びつける、そういった人づくりが可能になります。地域の中でよりよく生きるために、学び、つながり、活動する。そういった住民に支えられて、住みよい・住みたい地域が形成されます。

つまり、学校づくりを起点としながら、地域の人づくりが図られ、学校を始めとする地域のあらゆる教育資源と人々が活動することで、地域づくりが展開することになります。そういった地域づくりがすでに行われている地域を研究対象として分析するともに、そのような方向性を求める地域に参画・実践することも視野に入れます。

＜関連する担当授業科目＞

（1）全額共通教育講義として実施
- ○　ボランティア開発論Ⅰ・Ⅱ
- ○　コミュニティ開発論Ⅰ・Ⅱ

（2）教職大学院開講科目
- ○　地域教育経営の理論と実践
- ○　学校安全計画と地域防災

■新潟創生人材育成プログラム
「コミュニティマネジメントプログラム」
（上記ボランティア開発論・コミュニティ開発論を中心に実施）
地震や風水害、雪などの厳しい自然条件や災害と折り合いをつけながら、豊かな郷土を築き、維持・発展している新潟の地域とそこで活動する人たちに学び、地域の素材を発見し磨き育て上げる力、自助・共助・公助を考え合わせながら人と人とをつないでいくことのできる力を有する、コミュニティ・コーディネーター、災害ボランティア・コーディネーターの素養を持った人材育成を目指します。

関連する知的財産論文　等	青木栄一編『復旧・復興へ向かう地域と学校』（大震災に学ぶ社会科学第６巻）、東洋経済新報社、2015年。 日本教育事務学会研究推進委員会編『チーム学校の発展方策と地域ユニット化への戦略』学事出版、2018年。

アピールポイント

地方創生には様々な主体が取り組んでいますが、個々バラバラに活動するのではなく、つながりによる相乗効果をうみだしていけます。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・学校教育、家庭教育支援、社会教育・生涯学習にかかわる人・組織・団体
・地域づくりにかかわる人・組織・団体

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

入山研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
入山　満恵子　IRIYAMA Maiko

専門分野	言語発達学、言語発達障害学、特別支援教育

人文社会科学

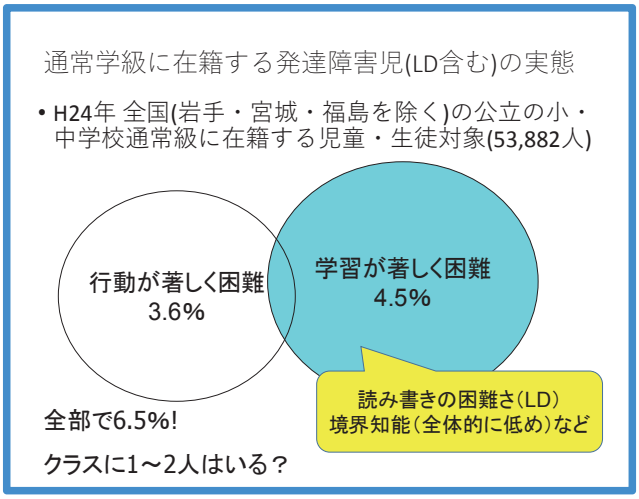
読み書き困難を持つ子どもたちの学習の自立を目指して

キーワード	読み書き障害、認知特性の偏り、コミュニケーション支援、ことばの遅れ

研究の目的、概要、期待される効果

知的な能力は低くないのに読み書きが難しい「読み書き障害」をご存知でしょうか。近年、通常学級のなかでも「発達障害」を持つ子どもたちの割合は6.5%と推計され、ひとクラスに何かしら支援を必要としている子どもたちが1,2人いてもおかしくないとされています。読み書き障害は発達障害の一つですが、認知特性の偏りがあるために、多数の方たちとは学び方が異なり、従来から学校で展開されてきた「みんなと一緒の方法」では学習困難に陥るリスクが高いのです。一方で、外からは非常にわかりにくいことなので、発見が遅れて学校で学習が躓いたまま苦しむ子どもたちは少なくありません。

現在、教育の現場ではこうした子どもたちを早期に発見し、本人に合った学びの方法を考え提供することが求められており、最終的には子ども自身が自らの認知特性を理解して、学習の自立を目指すことが重要とされています。私はニーズのある子どもたちの特性を各種評価から掘り下げ、必要に応じた方法や支援を提供するとともに、将来教員を目指す学生たちにそうした方法を伝えながら、早期発見を目指す研究プロジェクトなどを進めています。また、読み書きだけでなく、言語やコミュニケーションを支援する効果的な方法についてもゼミの学生たちとともに取り組んでいます。



「どんな方法が合っている?」
個別評価の様子→

関連する知的財産論文　等	「認知特性の偏りを包括した学童期英語指導の体系化に関する研究」（基盤研究©課題番号17K04926） 「ナラティブを用いた学習言語の評価と指導法の開発ー思考・学習のための言語習得に躓いている子どもの早期発見と支援のために」（第14回児童教育実践についての研究助成：公益財団法人博報児童教育振興会）

アピールポイント

教育系の出身ではありますが、言語聴覚士として病院での臨床経験が長いので、医療・教育等にまたがった多機関の連携を目指しています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・学校等の教育現場だけでなく、塾等でも認知特性の偏りがある子どもたちへの理解が広がることを期待しています。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

障害児生理学研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
渡邉　流理也　WATANABE Ruriya

専門分野	重度重複障害教育、医療的ケア、病弱教育、障害児生理学

人文社会科学

重症心身障害児のコミュニケーション支援

キーワード	重症心身障害、コミュニケーション支援、心拍指標、NIRS

研究の目的、概要、期待される効果

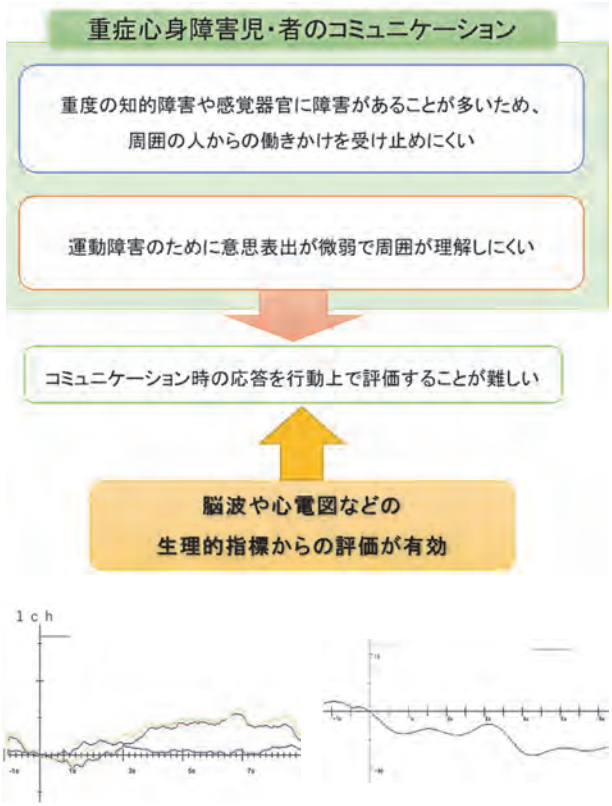
我々の研究室では、重症心身障害をもつ子どもや大人が社会生活を過ごすために自立に向けた支援や教育や、地域で暮らしやすくなるための研究を行っています。

重症心身障害とは、身体の麻痺等のために重度の運動障害をもち、発達が非常にゆっくりである重度の知的障害をあわせもった障害です。重症心身障害があると、身体を動かすことが難しいために周囲の人から話しかけられたりした時に応答していることが分かりにくかったり、本人の意思を周囲が理解することが難しかったり、コミュニケーションに大きく困難を抱えることが多いです。

重症心身障害児者の内面を客観的に評価することで、周囲の人とコミュニケーションがスムーズに行っていけるようになり、自立や社会参加がしやすくなることが期待できます。

内面を客観的に評価するために、本研究室では、重症心身障害児者の心拍や脳機能のデータを測定し分析を行っています。

また最近では、重症心身障害児者だけでなく、病気のために長期入院をしている子どもたちへの教育支援や生活支援にも取り組んでいます。



S1-S2パラダイム時のHb濃度変化（左）と心拍反応（右）

関連する知的財産論文　等	・渡邉流理也他（2004）「視覚障害を伴う重症心身障害児における期待心拍反応の生起と脳形態所見との関係」，『日本重症心身障害学会誌』，第29巻３号，pp．231-237. ・渡邉流理也他（2005）「脳酸素機能マッピングを用いた重症児の教育指導効果の評価法」，『日本重症心身障害学会誌』，第30巻3号，pp．265-270. ・渡邉流理也（2017）「肢体不自由特別支援学校在籍児のコミュニケーション機能評価の検討：行動評価とNIRSによる脳機能評価から」，『新潟大学教育学部研究紀要人文社会学編』10巻１号，pp31-39.

アピールポイント

重度の障害児への教育や支援や、地域生活への支援に取り組んでいます。

長期療養（入院）が必要な子どもたちへの教育支援にも取り組んでいます。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・重度の障害児・者の支援に取り組んでいる教育以外の他の職種

・最新のICT技術を生かす領域を探している研究関係者

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

法律学・政治学研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
小泉　明子　KOIZUMI Akiko

専門分野	法学、法社会学、社会学、ジェンダー、憲法

人文社会科学

近代家族概念はどのように変容しているか

キーワード	近代家族概念、家族の価値、LGBT、同性婚、夫婦別姓

研究の目的、概要、期待される効果

近代家族概念（異性婚夫婦とその子からなる家族）が法および政策にどのような影響を与えているか、また家族概念がどのように変容しているかについて研究しています。私領域として情緒的に語られがちな家族ですが、特に近代以降国民国家化に伴い、家族は国力の基盤として政治、法政策の対象として政治に組み込まれてきました。家族概念をめぐり、どのように法政策が動いているかが主たる研究関心です。

これまで、アメリカ合衆国を対象に、性的マイノリティである同性愛者たちが同性婚を求める権利運動について研究してきました。同性婚を認める国は2019年現在世界で27か国となり、アメリカでも2015年に認められています。しかし、同性婚は伝統的家族概念や家族の価値を壊すとして、保守派から様々なバックラッシュが生じました。これらのバックラッシュがどのようなものであったか、その中で近代家族イデオロギーがどのように用いられてきたかについて研究してきました。

最近、興味があるのは夫婦別姓問題です。なぜ諸外国が夫婦別姓を認める中、日本では夫婦別姓が認められないのか。名前は権力行使と結びつくという観点から、別姓を求める当事者等に聞き取りを行っています。

アメリカで購入した性的マイノリティ関連資料など

サンフランシスコ、ピンクトライアングルパークにて。

関連する知的財産論文　等	小泉　明子「『家族の価値』が意味するもの」落合恵美子・橘木俊昭編『変革の鍵としてのジェンダー』（2015年、ミネルヴァ書房）

アピールポイント

近代家族概念とその変容を通じて社会をどう把握していくか、また性的マイノリティと言われる方々の法的、社会的包摂をどう考えていくかが重要だと思っています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・性的マイノリティやジェンダーステロタイプ改善に意欲的であったり、生きにくい日本の社会構造に関心をお持ちの学校、企業、自治体、NPOなど。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

森下研究室

教育学部

WEBサイト⇒

人文社会科学系　准教授
森下 修次　MORISHITA Shuji

専門分野	音楽科教育、音響学、特別支援教育（音楽）、幼児教育（音楽）

人文社会科学

祭りと教育を核とした地域活性化
～　佐渡市豊岡地区における取組　～

キーワード	鬼太鼓、地域おこし、芸能伝承、木遣り、限界集落

研究の目的、概要、期待される効果

2009年から学生らと共に佐渡市豊岡集落における小田原神社春季例大祭（毎年3月下旬～4月上旬実施）を伝承しています。NPO法人佐渡芸能伝承機構の協力を得ながら１週間同地の佐渡市体験住宅で寝食を共にし、稽古を続け、祭り本番では鬼や獅子を演じました。また、この活動がきっかけとなり、地元でも「豊岡地域おこしの会」や「鬼太鼓保存会」が発足し、活動しています。

お盆頃の豊岡夏祭りには学生も参加しています。帰郷された方々を含む、豊岡関係者と学生との懇親の場となっていて、近年は子どもたち等も加わり、豊岡の今後のための貴重な場となっています。夏祭りの実施に当たり2017年より佐渡市の域学連携地域づくり応援事業の助成を受けています。

ここでの活動は地元・学生双方にメリットがあります。学生は小中学校における音楽教育が専門であり、鬼太鼓に必須の太鼓演奏は学生の得意とするところです。夏祭りの子どもたちとのふれあいも教員を目指す学生にとってうってつけの活動であり、また高齢化が進んだ地元にとっても学生の参加は祭りの存続のみならず活動の励みになるようです。

集落の存続に向けてどうするかが悩みながら活動しています。

平成31年3月31日　佐渡市豊岡　小田原神社にて

平成30年8月12日　佐渡市豊岡夏祭りにて

関連する知的財産論文　等	佐渡鬼太鼓におけるリズムの変化(新潟大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編 Vol.2 no.2 p.171-174) 大学教育の一環としての佐渡集落における芸能活動の意義(新潟大学教育学部研究紀要人文・社会科学編 Vol.7，No.1, p.127-132)

アピールポイント

佐渡市豊岡地区にお世話になって11年目になります。学生や卒業生にとっては、ここが第二の故郷のようになっています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・芸能を含む祭りを通して、学校や教育現場
・それらを支援する行政、NPO、地域おこし協力隊、企業等

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp

飯野研究室（住居学研究室）

教育学部

WEBサイト⇒ http:/

人文社会科学系　教授
飯野　由香利　IINO Yukari

専門分野	家庭科の住教育、住居学、建築環境工学

共通・他の領域

公営住宅での居住性の改善と空き家問題の予防策
～安全・健康・快適な住生活に向けて～

キーワード	住教育、住生活、住宅、住環境、公営住宅、空き家問題、地域コミュニティ、防災活動

研究の目的、概要、期待される効果

社会における高齢化、貧困化と建物の老朽化などの動向を踏まえて、本研究室では人々が安全で快適に住まうことのできる拠点作りや地域コミュニティの形成を目指して実践研究を行っています。例えば、公営住宅の自治会と協働して、集会所の温熱環境改善のために床面に断熱材とカーペット及び小屋裏に断熱材を敷設、冬期に窓面に断熱材やすきまテープを設置、夏期における通風時及びエアコンと扇風機との併用時の温熱環境の改善策の提案などを行い、集会所を住民の生活拠点（自治会活動や子どもの居場所、及び省エネな場所など）にするための仕組み作りや防災活動の支援を行っております。さらに、住環境で問題になっている夏期の熱中症対策や冬期のヒートショック対策を提示し、実測やアンケート調査などにより検証を行っています。

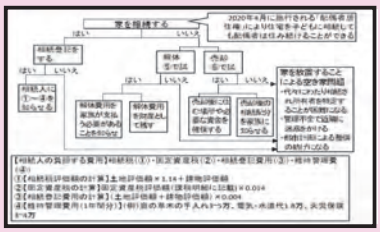
一方、人口減少に伴う空き家問題は自治体の都市計画の実施及び地域の治安や良好な景観の確保を妨げ、財政上の大きな負担になることが懸念されます。空き家問題の対策はリノベーションやリフォームが多いですが、実施数は限定的で時間も労力もかかります。高齢者に向けた空き家問題の周知啓発活動と、家主が自主的に持ち家の相続や処分を考える予防的な仕組みを考案し、自治体への取り組み方法の提案を行っています。

床面に断熱材とカーペットを敷設

小屋裏に断熱材を敷設　窓面の断熱性能の向上　エアコンの設置

【集会所の温熱環境改善】

高齢者への周知啓発講義と資料


家主が家の今後を検討するためのフローチャート

【空き家問題での周知啓発活動と予防策の提案】

関連する知的財産論文　等	被災地外の避難所における生活環境の実態（東日本大震災合同調査報告書, 建築編8, 2015） 新潟県営住宅における居住問題と集会所の多目的活用に関する研究（日本建築学会北陸支部報告集, 62号, 2019） 周知・啓発による空き家問題の予防策の検討（新潟大学教育学部紀要, 第12巻, 1号, 2019）

アピールポイント

居住者の観点から、居住性や住環境の問題及び社会や地域の諸問題について、実測・アンケート調査などにより把握し対策などを提示する研究と、実践的な活動を行っています。

つながりたい分野（産業界、自治体等）

・公営住宅における住環境の改善や地域コミュニティの形成及び防災体制の構築を一緒に行える自治体。空き家問題の予防的な取り組みに賛同・実践していただける自治体。

※お問い合わせは　新潟大学地域創生推進機構ワンストップカウンター　まで　onestop@adm.niigata-u.ac.jp